

2022年度 事業報告書

I. 放送関係の各種事業の企画と実施、学会・講座・コンクール等への協力

- (1) 全国放送教育研究会連盟・NHK主催の第69回NHK杯全国高校放送コンテストの講師・審査員として協力、協会賞贈呈(理事長さらだたまこが出席)。
- (2) 協会及び協会員主催による作家育成(放送作家・脚本家含む)を目的としたセミナーの実施

・セミナー「藤森いずみ土曜脚本塾」

4月24日より前期8回、11月13日より後期5回にて実施。

・脚本通信添削講座「ネット寺子屋」

協会員が行う通信添削講座。原則インターネット経由のみでやり取りする。
2022年度の講師は高谷信之、清水喜美子、渡辺麻実(敬称略)の3名。
ネット寺子屋については、10月で一時休講とした。

・「創作テレビドラマ大賞・創作ラジオドラマ大賞」公開講座

NHKの後援を得て実施。

【テレビドラマ大賞 公開講座】

日時:2022年5月28日(土)15:30~18:00

オンライン(ZOOM・ウェビナー)にて開催

出演:尾崎将也、清水友佳子、竹川春菜(第46回創作テレビドラマ大賞受賞者)
尾崎裕和(NHKメディア総局 第3制作センター[ドラマ]チーフ・プロデューサー)

押田友太(NHKメディア総局 第3制作センター[ドラマ]ディレクター)

進行:佃良太(第44回創作テレビドラマ大賞受賞者)

総合司会:井出真理(公募プロジェクト担当)

チケット申し込み 312名

【ラジオドラマ大賞 公開講座】

開催形式: ZOOM ウェビナー

日時: 11月13日(日) 15:00~17:30

タイトル: 通過と落選、その分かれ目にあるものは……

出演: 新井まさみ氏(脚本家) 北阪昌人氏(脚本家)+ゲスト俳優

上原哲也氏(第50回創作ラジオドラマ大賞受賞者)

真銅健嗣氏(NHKメディア総局 第3制作センター[ドラマ] オーディオドラマ制作 エグゼクティブ・ディレクター)

総合司会: 井出真理

チケット申し込み 143 名

テレビ・ラジオともオンラインで開催したことにより、リアル開催時の都内近郊からの参加の他、地方からの参加も多く、アンケート結果でも満足度が高いことが伺えた。

II. 未来を担う若手脚本家の発掘と育成

例年通り日本放送作家協会とNHKの共済事業として、NHKエンタープライズおよび放送文化基金の後援を得て「創作テレビドラマ大賞」、放送文化基金の後援を得て「創作ラジオドラマ大賞」を実施。

(1) 第 47 回創作テレビドラマ大賞

応募総数 953 篇から大賞 1 篇、佳作 2 篇を決定。

大賞 森野 マッシュ・作『ケの日のケケケ』

佳作一席 古賀 光紘・作『未完の本』

佳作二席 中村 謙一・作『二人の劇団』

(2) 第 51 回創作ラジオドラマ大賞

応募総数 325 篇から大賞 1 篇、佳作 2 篇を決定。

大賞 菊谷 淳子・作『逆さ首』

佳作一席 上野 詩織・作『春の飛沫』

佳作二席 柚子・作 『YOYOと』

III. 協会の広報活動

- (1) 協会及び協会の活動を紹介するホームページの維持、管理、更新
- (2) 協賛団体(株)EDIT運営のサイトMonjaにて会員リレーコラムを毎週日曜に掲載
- (3) 「放送作家の番組証言アーカイブ」を協力団体としてサポート
- (4) 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムとの連携により「放送作家のスイッチインタビュー」を実施。内村宏幸、矢野了平、伊藤正宏、たむらようこ、大井洋一、村上卓史が交互にインタビューを実施し、YouTubeに掲載。

IV. 放送文化の向上に寄与した団体および個人の表彰

〔功労者顕彰〕

小山 真弓 たきた ひなこ 溝田 佳奈 加藤 満男

V. その他の活動

・第五回「西の正倉院みさと文学賞」への協力

(株)TBS スパークルに代わり、第 5 回は宮崎放送から、さらだたまこ前理事長に依頼のあった事業。宮崎県美郷町主催「西の正倉院みさと文学賞」の運営(審査・広報)に協力。審査員長は小説家・中村航氏。応募作 48 作品

から大賞1作、優秀賞3作、佳作5作を選出。2023年3月25日授賞式を実施。

受賞作品は「第5回西の正倉院みさと文学賞作品集」(発行・クラーケン)として一般販売。

・脚本家プロフィール収集

2019年度、VIPO(映像産業振興機構)よりさらだたまこ理事長(当時)を通し依頼のあった事業。VIPOの推進事業に掲げるクリエイターバンク(さまざまな分野の作家の海外向けのデータベース)について、経産省の予算を使って、脚本家のプロフィール収集依頼。

2022年度は4名のプロフィールの更新を行った。

VIPOのウェブサイトに掲載した。(https://japancreatorbank.com)

・東京作家大学

日本放送作家協会関西支部が故・藤本義一支部長時代より約30年にわたり運営してきた「作家養成スクール 心齋橋大学」のメソッドを東京に導入した「市川森一・藤本義一記念 東京作家大学」の設立・運営に協力。

運営は「心齋橋大学」同様、株式会社大阪教育研究所が行い、協会はカリキュラム作成と講師紹介等を担う(講師は大阪教育研究所と直接契約)。

2022年度の大阪教育研究所からの賛助会費は150万円。

VI. 支部

1. 関西支部

1) 心齋橋大学 第36期生の開講

コロナ禍において関西支部の放送作家が中心となって講師を務める「心齋橋大学」の36期生が無事、開講できた。

リモートによる授業も充実させ、遠方からの入学者も増えた。

2) 放送作家協会と脚本家連盟の組織を分け、新たな支部長が就任

両組織の関西支部長を林禧男氏が務め、同じ銀行口座で予算を管理していたが、8月1日より新体制を発足。

脚本家連盟関西支部長に東野ひろあき氏、放送作家協会関西支部長に谷口隆三が就任。組織を分け、銀行口座も分けた。

両組織が協力し合って活動を行っていくこととなった。

3) YouTube「がらがらがっしょん」の制作

脚本家連盟関西支部と協力し、関西で活動する放送作家、ディレクターなどの経歴や活動内容を紹介する動画を制作。関西支部の認知度アップ、新たな会員の獲得を目指した。

(文責:支部長 谷口隆三)

2. 中部支部

1) 中部テレビ大賞の開催

2021年はコロナ禍で中止となった中部テレビ大賞を、2年ぶりに開催した。

中部地方の7県(愛知・三重・岐阜・静岡・福井・石川・富山)から寄せられた作品は18本。コロナ前と同じ水準に戻った。(2021年は9本)

まず7月に審査会を行うが、前年度の作品を繰り越しとしていた為、2年分の作品27本をプレビューし、審査するという千本ノックを受けるような2日間であった。

残念ながら大賞に該当する作品はなかったが、若い感性がぎゅっと詰まった瑞々しい作品にあふれ、充実した審査会となった。

9月には優秀賞・奨励賞の上映と表彰式を行い、これからのテレビ界で活躍が期待される若手ディレクターのモチベーションアップにつながるコンテストを開催することができた。

2) リレーエッセイの開始

支部の活性化を図ろうと、中部支部のホームページに掲載するリレーエッセイを始めた。一つのテーマで書き続けていくのではなく、あくまでも続けることを目的とし、書き手の自由な視点で思うがままに書いている。

当初は継続できるか不安もあったが、メンバー一人も脱落することなくエッセイのバトンを渡して、リレーは間もなく二周目に入る。

3) 勉強会の開催

コツコツと継続して開催している事業の一つ。

4年度は、日本脚本家連盟の伊佐治弥生氏を招いてお話を伺った。

今後も様々な分野から独自の視点を持った人をお招きし、メンバーのスキルアップを図っていききたい。

(文責・支部長 柳瀬元志)

3. 九州支部 支部長 盛多直隆 事務局長 皆田和行 監事 香月隆

1) 従来より開催している放送シナリオ講座の継続。講師陣は支部会員若干名。(日本放送作家協会九州支部&西日本新聞TNC文化サークル・アイ&カルチャ天神共催)

2) シナリオコンクール「南のシナリオ大賞」の運営、ならびに大賞入選作品のウェブ・ドラマ化およびインターネット配信(1年間公開)。第16回の応募総数は276編。

3) 支部会員が脚本を書いた舞台は、コロナの影響で公演出来ませんでした。

4) 支部のホームページは、常に更新しています。会員のイベント情報も掲載され活発に運営されています。

5) 九州支部の会員のコミュニケーションを図るために親睦会を計画しましたがコロナのため中止としました。

6) そのほか支部活性化のための事業を適宜、採択しています。

(文責・盛多直隆)

4.北海道支部 支部長:伊藤正浩 事務局長:藤原晴美 監事:吉本椎葉
顧問:菊地寛 永井浩

- 1) 高校生の放送活動への支援と協力
 - ①NHK杯全国高校放送コンテスト石狩大会の後援・審査員の紹介(5月)
 - ②NHK杯全国高校放送コンテスト北海道大会の後援・審査員の紹介(6月)
 - ③北海道高等学校文化連盟放送コンテスト石狩大会の後援・審査員の紹介(10月)
 - ④北海道高等学校文化連盟放送コンテスト全道大会の後援・審査員の紹介(12月)
- 2) 新人作家の養成・発掘のための支援と協力
 - ①日本脚本家連盟北海道支部主催の「北のシナリオ大賞」に協力
- 3) 北海道内放送関連の文化事業への協力と参加
- 4) 北海道支部ホームページの充実
- 5) 「北海道シナリオ撰集・2023」の刊行

(文責・伊藤正浩)

5.中国支部 支部長:野津聖治 監事:山田幸

1) 新会員の加入

昨年2月の前支部長急逝を受け、会員わずか5名となった支部を立て直すことに集中した1年でした。

その中で、入会への声掛けに3名の方が応じていただき、新会員として迎えることができました。

2) 中国支部の知名度向上への取組み

支部再建の手始めとして、中国支部の存在を再度認知してもらうため、中国・四国地方の全放送局、ケーブル局に宛てて挨拶状を発送しました。

今まで支部活動のほとんどは広島市内の放送局で行っていましたが、その枠を抜け、さらに将来、活動エリアを拡げるため、四国地方の放送局とも繋がりを持っていこうという思いです。

また、「地方の時代映像祭」等で受賞歴を持つ局とは個別にコンタクトを取り、連携した活動に向けた提案をしています。

3) 演劇界との交流

日本劇作家協会中国支部へ声掛けを行い、「放送」と「演劇」というジャンルを超えた共同での創作活動ができないか提案をしました。

(文責・野津聖治)

Ⅶ. 運営

1. 理事会の現役員は次の通り(2023年4月30日現在)

理事長 内村宏幸

副理事長 村上卓史

常務理事(3名) 石橋里恵(石橋映里)、井出真理、小林雄次

理事(10名) 荒井修子、伊藤佳子(いとう菜のは)、井上英樹(鮫肌文殊)

香取俊一(香取俊介)、東海林 桂、高橋聡子(入山さと子)

仲 陽子(たむらようこ)、富永樹里(武田樹里)、中村直子(羽田野

直子)、久松真一

監 事(2名) 上滝徹也(外部:日本大学名誉教授)

股野尚子(さらだたまこ(協会員))

2. 収支決算は提出別掲(決算報告書)の通り

3. 事務局職員 阿部佳奈子が協会事務を担当。

4. 事務局業務 常務理事が規約の日当支払に準じて分担して業務を担当。

以上、当協会2022年度 事業報告書であります

2023年 4月 30日

一般社団法人 日本放送作家協会
理事長 内村 宏幸